



# 簡単華やか 部屋に彩り

## 花や葉束ねるインテリア「スワッグ」

おしゃれな空間づくりができるインテリアとして人気のスワッグ。ドイツ語で「壁飾り」を意味し、花や葉などを束ねて飾ることを指す。持ち手の位置に決まりがなく、自由に飾れるのが特長。生花を用いれば、ドライフラワーになるまでの過程も楽しめる。水やりなどの手間が不要で、記念日や開店祝いの品として贈る人も多い。

ユーカリ、スターチス、バラ…。南九州大環境園芸学部4年の澤田奈七さん(21)＝都城市＝は部屋の壁一面にスワッグを飾っている。「見た目が華やか。ハーブが入っていると、清涼感ある香りも楽しめる」と、魅力を語る。九つあるスワッグのうち、最も古いのは3年前に友人から贈られたもの。きちんと乾燥させれば長くもち、好きな香水をかけて芳香剤代わりにすることもできるという。大学では自身が作ったスワッグをロッカーにつるし、目印としても活用している。

「好きな植物と麻ひも、はさみがあれば誰でも簡単に作れますよ」と、話すのは同大学の牧田直子専任講師(造園学)。ユーカリなど1種類だけを束ねても良く、複数の草花を使う場合は緑の丈が長いものを後ろに、手前には花など色や形がポイントになるもの、短いものを配置。左右非対称にするのが、おしゃれに見えるコツだという。

レモングラスをねじりながら束ねて麻ひもで結び、結び目に赤いリボンを巻けば、クリスマスっぽくなり、松を挿せば正月らしさを表現できる。牧田専任講師は「枝や葉、実

が入ると、よりナチュラルに仕上がる」と言う。

凝ったスワッグを作りたい人にはワークショップもお勧め。10日に宮崎市のカーリーノ宮崎で開かれたクリスマススワッグ作りには親子10組が参加。モミやコニファーなどを組み合わせ個性豊かなスワッグを完成させた。参加した同市の会社員川崎秀美さん(36)は「作った思い出とともに残せるのがいい」と笑顔を見せる。(竹村麻実)



剪定(せんてい)した草花など身近な花材を使ったスワッグ作りを勧める南九州大の牧田直子専任講師＝都城市立野町(米丸悟撮影)

牧田直子専任講師が数分程度で仕立てたレモングラスのスワッグ＝都城市立野町(米丸悟撮影)



「水分が多いものや花びらが分厚いもの以外はスワッグに向いている」と話す澤田奈七さん＝都城市広原町(米丸悟撮影)



ワークショップで「クリスマススワッグ」を作った参加者たち＝宮崎市のカーリーノ宮崎



自分で作ったり友人からもらったりしたスワッグが並ぶ澤田奈七さん宅＝都城市広原町(米丸悟撮影)